

平成30年度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

(平成29年度事務事業)

平成31年1月

増毛町教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見も活用しながら、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっております。

このことから、増毛町教育委員会では、「増毛町教育事務執行の点検及び評価等に関する規程」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすため、「教育に関する点検及び評価」を実施し、報告書をまとめました。

増毛町教育委員会としては、点検・評価の実施を通じて施策の効果的な検証と積極的な改善を図りながら、教育行政施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、皆さんの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年度 教育委員会事務事業の点検及び評価

【学校教育】

小学校1校（児童156名）、中学校1校（生徒107名）、幼稚園1園（園児23名）に在籍する児童生徒、並びに、幼児一人ひとりの個性と能力を伸ばし、心豊かで自主・自律の精神を身に付け、地域社会の形成者として必要とされる資質を養うことを目的として学校教育の推進を図ります。

（1）教育の充実

社会が目まぐるしく変化していく時代、子どもたちが将来自立した人間として生きていくためには、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付け、それらを活用できる学力を育むことが重要であります。

そのためには、各学校において、学習指導要領に基づき、意欲的に学習し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを身に付けることができるよう努めます。

また、教員は教育への情熱や指導力などの資質の向上が不可欠であり、広い視野、視点から自己研鑽を促し、指導力を高める校内、校外研修の充実を図ります。

（主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
教育支援員の配置	<ul style="list-style-type: none">・学校教育活動支援員 児童生徒のいじめ・不登校及び学校諸問題への対策として、支援の充実を図った。増毛中1名 学校の諸問題について指導助言、支援を行い、教育活動の充実が図られた。・学習支援員 児童生徒の学習効果を高めるための学習支援や、学校生活へのより良い適応を図るための支援の充実を図った。各小中学校1名 学習支援を行うことにより学習効果が高まり、学校生活への適応が図られた。・特別支援教育支援員 特別な支援を必要とする児童生徒個々に対応した適切な教育支援体制の充実を図った。 特別支援学級数 増毛小学校 4学級（7名） 増毛中学校 4学級（4名）

	<p>計8学級(11名)</p> <p>増毛小学校に特別支援教育支援員を2名配置し、支援指導体制の充実が図られた。</p>
少人数指導教育の推進	<p>指導方法工夫改善事業の教員加配により、チーム・ティーチングや少人数による習熟度別学習指導を行い、効果的な教科指導が図られた。</p> <p>実施校 増毛小学校(指導方法工夫改善加配1名) 増毛中学校(指導方法工夫改善加配1名)</p> <p>指導教科 小学校(国語、算数)、中学校(国語、数学、英語)</p> <p>基本的な学習の定着を目指して実施しているが、今後も継続して実施が必要と考えている。</p> <p>なお、次年度以降も両校で加配を要望することとしたい。</p>
外国語教育の充実	<p>小学校高学年の英語必修化及び中学校での英語教育の充実を図るため外国語指導助手を配置し、各小中学校、幼稚園、保育所への巡回指導のほか、夏休みに小学生向けの英語塾、社会教育分野での事業展開を行っている。</p> <p>巡回指導では、英語担当教員と連携した指導を行うことで、授業の充実が図られた。また、巡回指導以外での活動をとおして幅広い世代の町民が英会話に親しむことができた。</p>
長期休業中の学習機会の拡充	<p>夏季・冬季休業期間に短期学習会を実施し、教員により自習の補助を行った。</p> <p>夏季休業 ・7月24日～25日、8月14日～15日 会場:増毛小学校 小学生160名参加(全学年) ・7月24日、8月7日 会場:増毛中学校 中学生157名参加(全学年)</p> <p>冬季休業 ・12月25日、1月15日、16日 会場:増毛小学校 小学生130名参加(全学年) ・12月25日～26日 会場:増毛中学校 中学生139名参加(全学年)</p> <p>基礎・応用問題を習熟度に応じ、個々に取り組むことにより、基礎学力の向上を今後も図って行きたい。</p>
学校図書活動の充実	<p>計画的な図書購入により学校図書の充実を図った。</p> <p>図書購入費 小学校820千円 中学校194千円</p> <p>各学校で朝読書等の図書活動を行っているが、読書が生活の一部として習慣づけが、まだまだ不十分であり、今後も学校図書を充実し、図書活動を進めて行きたい。</p>

<p>要保護準要保護就学援助事業</p>	<p>生活保護受給世帯及び生活保護に準じた援助が必要な世帯の児童生徒に対し就学援助を行った。</p> <p>小学校 7名 5世帯 321千円 中学校 4名 4世帯 851千円</p> <p>学用品費、給食費、修学旅行費などの援助を行い、保護者の経済力による教育格差の是正が図られた。</p>
<p>健康診査の実施</p>	<p>学校保健安全法に定められた児童生徒の健康診断（内科、歯科、心電図、脊柱側弯症）を実施した。</p> <p>また、教職員の健康診断を実施し健康維持管理を図った。</p> <p>今後も法律の規定に基づき、児童生徒の健康診断を実施するとともに、教職員の健康診断についても、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するため実施する。</p> <p>教職員健康診断の実施については、町職員の検診実施機関に依頼し経費の軽減と事務の効率化が図られた。</p>
<p>給食事業</p>	<p>各学校において、栄養バランスを考え、積極的に地元食材を使用した美味しい自校給食を行った。</p> <p>また、栄養教諭が各学校を巡回し、食育指導の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食設備維持費、人件費等の公費負担経費 <p>小学校費 8,781千円 中学校費 7,070千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭巡回 <p>献立打ち合わせ 月1回（全校） 食育授業 各学期に1回（学校要請による）</p> <p>適切な衛生管理・栄養管理のもと、学校給食の運営を行うことができた。</p>
<p>防災指導</p>	<p>災害等の発生時に冷静・敏速・安全に行動ができるよう、各学校において避難訓練を実施した。</p> <p>増毛小 火災 6月23日、地震津波 9月1日 増毛中 地震津波 9月1日 幼稚園 地震津波 5月12日、9月1日 火災 2月13日</p> <p>避難訓練を通じ、児童生徒の防災意識を高めることができた。</p>
<p>教育振興会事業</p>	<p>町教育振興会が主催となり、児童生徒の学習意欲を高め、学習成果を上げるため、教育機器の活用及び学習方法の研究や児童生徒の問題について実践研究を行い、教職員の職能向上と教育内容の充実に努める。また、小中の連携を一層進め、児童生徒指導及び学習指導の充実に努め、学習成果をとおして学校間の親睦と交流を深める</p>

	<p>ため各事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画書道展 元陣屋・オーベルジュまじけ ・ 特別委員会及び推進委員会、編集委員会 <ul style="list-style-type: none"> ICT推進委員会・小中連携教育推進委員会・副読本編集委員会 ・ 研究体制 教科班8班・教科外2班 ・ 一斉研修 研究計画の実践・研究のまとめ <p>各事業を通じ、地域的連帯感を育み、児童生徒の学習意欲の向上が図られた。</p>
ICT 教育の環境整備	<p>ICT教育を推進するため、校内無線LANの環境整備と教育用タブレットを導入し、教育用アプリを活用した授業環境の整備、ICT教育推進の基盤構築が進められた。</p>
教材備品の整備	<p>児童生徒の教科指導に必要な学習教材備品の購入を行った。</p> <p>小学校 教材備品の購入 289千円</p> <p>中学校 教材備品の購入 422千円</p> <p>教材備品の購入・更新を行い、教育環境の充実が図られた。</p>
教材費の助成 (保護者負担の軽減)	<p>児童生徒の教科指導に必要な一般教科費の助成を行った。</p> <p>小学校</p> <p>消耗教材費助成 390千円 児童1人2,500円×156人 道徳・総合的学習消耗教材費 84千円</p> <p>中学校</p> <p>消耗教材費助成 375千円 生徒1人3,500円×107人 道徳・総合的学習消耗教材費 24千円</p> <p>消耗教材費助成を行うことで、保護者の負担軽減が図られた。</p>
学校給食費の一部負担 (保護者負担の軽減)	<p>平成29年度から学校給食費の一部を助成した。</p> <p>助成金額 小学校 2,344千円 中学校 1,829千円</p> <p>学校給食費の一部(主食、牛乳の購入に係る経費等)を助成することで、保護者の負担軽減が図られた。</p>
児童生徒の傷害保険掛け金の全額負担 (保護者負担の軽減)	<p>学校生活における児童生徒の負傷等に対応するため、日本スポーツ振興センターの災害共済に町費で加入した。</p> <p>加入金額 幼稚園 7千円、小学校 142千円、 中学校 101千円</p> <p>学校内で児童生徒が負傷した際の医療費について、保護者の負担軽減が図られた。</p>
スキー授業への援助 (保護者負担の軽減)	<p>冬期間の体育授業(スキー学習)におけるリフト使用料の全額援助を行った。</p>

	<p>援助額 小学校 404千円 中学校 267千円</p> <p>リフト使用料の全額援助を行うことで、保護者の負担軽減が図られた。</p>
<p>中体連参加費の助成 (保護者負担の軽減)</p>	<p>管内大会及び全道・全国大会参加費用の助成を行った。</p> <p>管内大会 全額助成 384千円 全道・全国大会 参加料・交通費全額助成、宿泊費一部助成 助成額 507千円</p> <p>出場種目 サッカー、陸上、卓球、野球、吹奏楽、スキー 大会参加費用の助成を行うことで、保護者の負担軽減と部活動の推進が図られた。</p>
<p>中学校武道必修化に伴う柔道着の整備 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成24年度から中学校体育授業において柔道が必修となったため、柔道着を町費で購入した。</p> <p>購入費 248千円</p> <p>1年生に対し柔道着を町費で購入し、保護者の負担軽減が図られた。</p>
<p>小学校新入学児童へのランドセルの寄贈 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成30年度の新入学児童へ、小学校の1日入学時にランドセル(ナップランド)の贈呈を行った。</p> <p>増毛小学校新1年生 児童数 34名 153千円</p> <p>ナップランドの贈呈により保護者の負担軽減が図られた。平成6年から行われているこの事業は、保護者にも定着しており事業継続が望まれる。</p>
<p>中学校新入学生徒へのカバン、ジャージの寄贈 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成30年度新入学生徒へ、入学祝い品としてカバン・ジャージの贈呈を行った。</p> <p>増毛中学校新1年生 生徒数 37名 500千円</p> <p>入学祝い品の贈呈により保護者の負担軽減が図られた。前年度から行ったこの事業は保護者にも喜ばれており、事業の継続が望まれる。</p>
<p>スクールバスの運行</p>	<p>遠距離通学児童生徒の登下校のためにスクールバスを運行のほか、各種校外活動等においてもスクールバス運行を行った。</p> <p>安定したバス運行により乗車する児童生徒の登下校の安全確保が図られた。</p> <p>また、長期休業中の部活動においてもバスを運行し、保護者負担の軽減と教育活動の充実が図られた。</p>
<p>学校評議員の設置</p>	<p>小中学校に学校評議員を設置した。評議員の任期は1年、保護者・地域住民等で構成している。</p>

	<p>増毛小 5名、増毛中 4名</p> <p>評議員の意見をもとに、地域に根ざし、ひらかれた学校運営が推進されている。</p>
教育団体への助成	<p>児童生徒の指導研究を行う「増毛町教育振興会」など、町内の教育団体への助成を行った。</p> <p>増毛町教育振興会 256千円</p> <p>教職員の指導力向上、教育環境の支援と充実が図られた。</p>
幼稚園教育の充実	<p>幼児一人ひとりの発達の特性を踏まえ、多様な体験と知的発達を促す活動、体力づくりなど、就学前の教育の充実に努めた。</p> <p>教員数 園長1名 教諭3名 公務補1名</p> <p>就園児数 4歳児10名 5歳児13名 計23名</p> <p>園内活動のほか、保育所との合同交流会を行い、就学に向けて交流が図られている。</p> <p>また、各家庭との連携を図り、保護者の幼児期の教育に関する理解を深めてもらい、保護者が幼稚園と共に幼児を育てるという意識を高めていきたい。</p>
高等学校生徒への通学費の助成	<p>増毛高校の閉校に伴い、留萌市内の高校へ通学する生徒の保護者に対し通学費の助成を行っている。</p> <p>助成生徒数 66名 助成総額 6,515千円</p> <p>事務手数料 257千円</p> <p>通学費の助成を行うことで対象家庭の経済支援が図られた。</p>

(2) 学校施設等の環境整備

児童生徒が、安全・安心でより快適な学校生活を送れるように、学校施設の補修・改修を行います。

また、老朽化している町内の教職員住宅の補修、設備備品の更新を行い、教職員の生活環境の改善を図ります。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
各学校の維持管理補修	学校運営に欠かせない校舎・設備等の修繕を行った。 幼稚園 計447千円 ・リビングヒーター修繕ほか 小学校 計19,280千円 ・体育館暖房機改修工事ほか 中学校 計3,058千円 ・給湯配管工事ほか 児童生徒が安全に学校生活を送れるように、限られた予算のなかで教育環境の改善を図っている。
教職員住宅の環境整備	教職員住宅の改修・設備備品等の更新を行った。 教職員住宅修繕費 349千円 設備備品等修理費 439千円 教職員住宅に居住する教職員の生活環境の改善を図っている。 今後も計画的に進めて行きたい。

【社会教育】

今年度から、第八次増毛町社会教育中期計画（平成29年度～平成33年度）に沿って単年度ごとの増毛町社会教育推進計画を作成し、社会教育を推進しております。

増毛町社会教育の目標は、「増毛町民の誓い」を基本とした実践活動をとおして「住んで誇りに思える故郷」の具現化につなげるために、地域に親しみ、人と人との確かなつながりによって、町民相互の交流が深まるような教育活動の推進を図っております。

各事務事業の実践においては、PDCAを繰り返しながら町民の皆様の学習意欲に応えるべく取り組んでおります。

また、町民への社会教育事業の広報紙「社会教育だより」及び、家庭教育情報紙「親子の時間」を毎月発行し、社会教育の事務事業の周知活動に努めております。

（1）学習や社会参加への意欲を高める生涯学習活動の推進

町民の皆さんが生涯にわたり生きがいとゆとりを求め、自らの資質向上のための学習活動を助長できるように各種情報を提供するとともに、各施設を有効利用しながら生涯学習活動の推進に努めております。

また、人口減少などにより、一人ひとりの行動の重要性が顕著となっておりますので、家庭教育情報誌「親子の時間」の定期的な配付による、家庭・地域・学校での連携した家庭の教育力の向上に重点をおいて取り組んでおります。

（主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
三世代交流事業 [幼児・成人・高齢者]	11月17日、文化センターで幼稚園児・父母・暑寒大学との世代間交流を目的として開催し交流を深めた。 核家族化が進行する中、三世代が一堂に会し一緒に活動することは、幼稚園児の世代にとっては互いに助け合い、いたわり合う心の育成が図られる大変貴重な体験であり、今後も継続する必要がある。事業内容としては、参加している父母の世代が、もっと積極的に関わるものとする必要がある。
家庭教育情報の提供 [幼児・少年・成人]	家庭教育に関する情報紙「親子の時間」を毎月広報の発行日に全戸に折込みをして、家庭教育の重要性を醸成している。 月1回、全12回発行
中学生の国内研修 [少年]	3月25日～3月28日、関東方面へ3泊4日の研修を実施した。参加者は中学1～2年生15名、普段体験できない歴史や文化に触れ、意義のある研修となった。また、研修の成果を向上させるため事前研修を5回、事後研修を開催した。（1回目13名、2回目3名） 参加者には大変貴重な体験であり、好評な事業のため、今後も継続する必要がある。
ましけキッズ体験隊 [少年]	小学生全学年を対象とした事業として、低学年・中学年・高学年の3クラスに分けてそれぞれ事業を実施した。

	<p>低学年、中学年、及び高学年ごとに活動目標を定め、年間の体験活動を通じて少年の育成を推進した。</p> <p>事業内容は、低学年は親子工作・日帰り研修・親子ハイキング（いちご狩り）など、中学年は基礎工作・日帰り研修・暑寒大学との料理教室・ハイキング（リンゴ狩り）・英語教室など、高学年は基礎工作・パークゴルフ体験・宿泊研修・ごだらっぺ王国祭実行委員会・英語教室・日帰り研修などの事業を行った。</p> <p>参加者は、低学年12名と保護者、中学年22名、高学年24名。参加者には大変貴重な体験であり、好評な事業のため、今後も継続する必要がある。</p>
子ども会ジュニアリーダー修学旅行 [少年]	<p>7月27日～28日、大雪青少年交流の家に宿泊し、旭川市・美瑛町で研修を実施した。小学5、6年生24名が参加。</p> <p>団体活動で子ども同士の交流を深めることによって、仲間を思いやる心や最後までやり抜く精神力や身体を育て、リーダーの育成を図ることができた。</p> <p>この事業に参加した子どもは、ごだらっぺ王国祭の実行委員になり、増毛キッズ体験隊の中学年の22名と共に、9月23日の王国祭の事業では実行委員としてゲームや出店で積極的に活動した。</p>
少年の主張大会 [少年・成人]	<p>小学生4名、中学生3名の発表者により、11月23日文化センターで開催した。</p> <p>聴衆の前で自らの考えを発表することは貴重な体験であり、今後も各学校と連携を図りながら継続する必要がある。</p>
ごだらっぺ王国祭 [少年]	<p>9月23日文化センター及び体育館で開催、小学5、6年生24名と3、4年生22名の実行委員が企画し、子ども会育成員・教育委員会職員とともにゲーム・出店の運営を行い、町内の幼児・小学生・保護者等266名の参加があった。30年以上続く幼児・少年の事業であり、子どもたちが毎年楽しみにしている事業であるが、町内の子ども会の大幅な減少による運営スタッフの確保、少子化によるゲームの運営やゲームと出店の時間調整など問題点も多く、大幅な運営の見直しが必要な事業である。</p>
体らくらくシンプル体操 [青年・成年]	<p>青年層の組織づくりへの導入事業として、また、成人の様々な学習機会を提供するため、ラ・サンテの田村豊氏を講師として、体らくらくシンプル体操を2月26日と3月5日に実施した。参加者は延べ35名。</p> <p>継続性のある青年・成人領域の活動を図るためには、青年・成人が自ら意欲的に事業に関わる組織づくりの取り組みが必要と思われる。</p>
英会話教室 [成年]	<p>生の英語に触れ合う機会を提供するため、町のALTによる英会話教室を、全25回の日程で開催した。</p>

	<p>あいさつなど基本を中心にした英会話や時には歌も交えながらのレッスンであったため、楽しんで参加していた様子が伺えた。今後も継続して開催していきたい。参加者延べ233名。 今後もALTの有効活用と参加者の増を図っていきたい。</p>
<p>さくらコミュニティ 学級 [女性]</p>	<p>町内の70歳までの女性を対象に、毎月第2火曜日に学習会や実技講習など年12回開催し、趣味・料理教室・研修旅行等の学習会などを行い、男女共同参画社会への推進を図った。今後も豊かな人間性を培うとともに生活の向上に努めたい。 学級生数は47名。 人口減少等により新入生の確保が難しい状況にあり、入学生の確保のための工夫が必要である。</p>
<p>暑寒大学 [高齢者]</p>	<p>町内の65歳以上の方を対象に、学習会・講演会・施設見学など毎月第2、第4金曜日に年20回の行事を実施した。 趣味・レクリエーション・健康等の学習会などの開催に努め、高齢者の団体活動の楽しさを感じられる事業を中心に行った。 近年、男性の入学者が増えたことで学生間の交流が活発になった。今後は更に参加しやすい環境整備を図っていきたい。 学生数は53名。</p>

(2) 地域文化の創造を目指す芸術文化活動の推進

芸術文化は、人々に感動や安らぎをもたらし、豊かな人間性と心に潤いをもたらすものであり、欠かすことのできない役割を担っております。

活動の拠点として、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」及び創作の館が、より身近に親しむことができるように、文化協会をはじめとする関係団体と連携を図りながら芸術文化活動を推進しております。

また、重要文化財「旧商家丸一本間家」や、平成30年3月30日に北海道指定有形文化財となった「巖島神社」については、増毛町の重要な観光施設としての側面も考慮し、増毛町の歴史を内外へ発信しながら、保存・活用に努めております。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
増毛町文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示（出品10団体） 10月28日～11月5日、元陣屋で開催した。 ・舞台発表（出演5団体） 10月29日、文化センターで開催した。 <p>文化協会と共催し、文化活動の奨励と発表・交流の場をつくり、創造性豊かな心のかん養が図られるよう展示、舞台部門をそれぞれ開催した。文化協会の活性化を図る必要がある。</p>
芸術鑑賞会	<p>8月22日に増毛中学校体育館で、中学生を対象とした「音楽鑑賞会」として、アイリッシュ音楽のグループ、クランフィールドズ</p>

	<p>のコンサートを開催した。</p> <p>巧みな技術で終始中学生を引き付けた迫力のある音楽や増毛中学校の校歌の演奏も交えた公演となった。日常鑑賞することの機会が少ない舞台芸術を体験し、非常に有意義な体験ができた大変好評であった。</p>
全町書き初め大会	<p>1月10日町立体育館で開催、参加者50名。</p> <p>町文化協会と共催で実施。事業の周知及び教育関係者の協力を得て、近年は参加者が安定している。</p> <p>今後も継続する必要がある事業である。</p>
団体・サークルへの支援援助	<p>増毛町文化協会（加盟26団体）へ、総額117千円の助成を行った。</p>
重要文化財 旧商家丸一本間家の公開	<p>一般公開期間：4月21日～11月8日（188日間）</p> <p>入館者は8,209名（前年度比1,805名減）</p> <p>入館者の増加につなげるため、一般公開中に継続して芸術文化鑑賞事業を実施した。</p> <p>「増毛町地域の文化創造推進事業」</p> <p>本間家ミニ縁日の開催 5月27日、28日 参加者数延べ471名</p> <p>茶菓サービス 7月1日、2日 参加者数延べ160名</p> <p>本間家で怪談話2017 8月2日開催 参加者数92名</p> <p>企画展：「手帳に見る本間泰蔵3」 9月8日～27日 参加者数延べ648名</p> <p>観光施設としての側面もあり、次年度も、重要文化財に更に親しんで頂くようにイベント等の企画に取り組んでいきたい。</p>
史跡標柱の設置	<p>増毛町指定史跡のうち29カ所に標柱の設置を行った。</p> <p>（設置4月12日～撤去10月20日）</p> <p>また、平成23年度から毎年1箇所の史跡の紹介看板を設置しているが、本年度は「りんご栽培の父藤原筆吉翁の碑」史跡に設置し、今後も年1か所の設置を予定している。</p> <p>また、町内の史跡を紹介する史跡マップを町内拠点施設等に配布した。</p>
ましけ町民スクールへの助成	<p>ましけ町民スクール運営委員会へ1,000千円の助成を行った。また、同団体との共催により、4回の講座を実施した。</p> <p>第1回 6月20日 テーマ：健康（参加者90名） 小松信隆氏（北海道コンサドーレ札幌管理栄養士）</p> <p>第2回 7月25日 テーマ：邦楽（参加者127名） しんた with 音鼓衆（和太鼓奏者）</p> <p>第3回 9月6日 テーマ：和芸（参加者291名） よしもとおわらいライブ（よしもと刈り取りライブ）</p>

	<p>第4回 10月20日 テーマ：天文学（参加者62名） 山岡均氏（国立天文台広報室長） 「住民による住民のための開かれた学習の場」として開催されている講座だが、近年は娯楽性の強い講座も盛り込み、総合的な文化事業として町民に浸透している。</p>
文化財保存団体への助成	<p>増毛町指定無形文化財「雄冬神楽」保存会へ63千円の助成を行った。 また、増毛町指定有形文化財「巖島神社本殿」保存会へ17千円の助成を行った。</p>
旧商家丸一本間家 関連資料の調査と活用	<p>閉館作業終了後、臨時職員1名により本間家に関連する文書、書簡資料及び陶器、漆器などの生活資料の掘り起しを行った。 様々な書簡や連絡資料などにより、明治末期から昭和初期における本間家の取引関係や親族との付き合い、当時の物価や建物の変遷などが徐々に明らかになっている。 新たに判明した資料については、次年度以降の企画展の開催において主要な展示として活用していくとともに、来館者への説明資料としても活かしていく。</p>

（3）健康で活力ある生活を目指すスポーツ活動の推進

高齢化により、体育協会の会員数の減少など町内のスポーツを取り巻く環境は厳しい状況に向っておりますが、スポーツ活動は、身体を動かすという人間の根源の欲求に相應るとともに、精神的充足や楽しさをもたらすものであり、心身ともに健康で豊かな生活を送れるよう、生き生きとしたスポーツ活動の実現に向け、スポーツ推進委員及び各種関係団体と連携を図り、現状に見合うスポーツ活動の推進に努めております。

（主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
スポーツ団体への支援援助	<p>①体育協会への助成 加盟10団体、会員数270名、425千円の助成を行った。 スポーツ関係団体が、高齢化や会員の減少傾向にあることから、継続し事務局を担い団体の育成・強化に努めた。</p> <p>②スポーツ少年団本部 加盟6団体、会員数79名、280千円の助成を行った。また、事務局を担い、各少年団の連携を図っている。</p>
第7回健康づくりウォークラリー	<p>新たな健康づくり事業として、平成23年度からウォークラリーを開催し、今年度は7年目を迎えた。 7月9日(日)町内の約5kmのコースをオリエンテーリングし、ゴール後は文化センターにて軽食を食べて、参加者の交流を図った。 事業が町民に浸透し、40名が参加、安定した参加者数があり、好評のため、今後も継続して実施する必要がある。</p>

ましけラン2017	<p>9月10日(日)リーバーサイドパークをスタート・ゴールとして実施した。1.8km、3.2km、5.0kmの各コースに109名の参加申込みがあり、当日は87名が出場した。</p> <p>今後も関係者と協議し工夫しながら更に一層の活性化を図りたい。</p>
第7回暑寒別岳ジャイアントスラローム大会(補助事業)	<p>町スキー連盟の主催事業に100千円の助成を行った。</p> <p>大会は、暑寒別岳スキー場で3月11日に開催し、185名の参加があった。</p>
スポーツ交流大会(委託事業)	<p>①第30回増毛リトルカップサッカー大会(主催:サッカー連盟) 男子小学4年生以下及び女子小学生を対象とした全道でも歴史ある大会。 8月5日～6日開催、全道各地から12チーム、選手200名参加。</p> <p>②第21回フレンドリーカップ少年野球大会(主催:野球連盟) 5月6日開催、増毛町と留萌市からの4チームの野球少年団が増毛町を会場に開催。選手60名参加。</p> <p>③第28回サーモン杯争奪ミニバレーボール大会(主催:ミニバレーボール連盟) 10月15日開催、留萌・羽幌・幌延など近隣市町村から13チームのミニバレー愛好者47名が参加し、増毛町を会場に開催されている伝統ある大会となっている。 各種スポーツ交流大会については、町外からの参加者にとっても好評な事業となっており、増毛町への交流人口の拡大に向けても期待できる事業であるため、今後も継続して実施する必要がある。</p>

(4) 社会教育施設の活用推進

住民の多様なニーズにあった学習や交流の場ができるよう、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」及び創作の館の運営充実に努めております。

また、スポーツ活動の推進を図るため、体育館、屋内グラウンド、温水プール及び学校体育館の開放充実に努めております。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
文化センター	<p>文化サークルや地域住民の集会施設としての利用も多く、文化活動や地域づくりの拠点施設として管理運営に努めた。</p> <p>開館日数359日 利用人数24,451名(前年度比1,351名減)</p>

<p>総合交流促進施設 「元陣屋」</p>	<p>開館日数306日 入館者9,683名（前年度比1,723名減） [図書室の利用] 利用人数 1,685名（前年度比217名減） 貸出冊数 7,648冊（前年度比1,135冊減） [展示室の利用者数] 978名（前年度比822名減） [各室の利用者数] 1,022名（前年度比380名減）</p> <p>※町の読書を普及させる拠点としての役割を強化するため、下記の事業を実施し、読書活動の活性化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おはなしポトフセレクション」 幼児と小学校低学年を対象とした絵本の読み聞かせ事業 全3回 参加者数延べ53名 ・「おはなしポトフ・プチ」 乳幼児検診時に幼児と保護者を対象とした図書の奨励事業。 全6回 参加者数延べ26親子 ・「こどもシアター」 年5回幼児・児童向けの映像ソフト鑑賞事業 全5回 参加者数延べ31名 ・「移動図書館事業」各施設月2回程度 小中学校・学童保育での絵本の読み聞かせや本の貸し出し 全47回 貸出冊数3,053冊 保育所での読み聞かせ 全24回 <p>※平成29年度単独事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「元陣屋映画祭」 子ども向け 8月25日 参加者数15名 大人向け 8月26日 参加者数19名 ・「元陣屋まつり」 12月11日 参加者数37名 ・「ハロウィンでトリック・オア・トリート！」 10月15日 参加者数65名 <p>元陣屋特別展 「佐藤圭・野生動物写真展」 参加者数700名</p> <p>毎年、工夫をこらして各種事業を実施しているが、子どもの読書離れが進んでいるため、次年度からは社会教育だより等を活用した情報提供や、BGMの導入、テーマに沿った展示スペースの拡充など、利用者増へ向けた改善に取り組む。</p> <p>「大正琴サークル」、「シェイプアップサークル」などの文化協会加盟団体の定期的な活動や、町民文化祭における展示部門の開催も行われており、芸術文化施設としての役割も大きい。</p>
---------------------------	--

創作の館	<p>陶芸サークル、革工芸サークルの2団体が定期利用、暑寒大学やさくらコミュニティ学級の学習活動でも利用した。</p> <p>場所的に不便さもあるが、設備も整っており、技術の向上とコミュニティ醸成の場として有効に活用されている。</p> <p>開館日数111日、利用者652名（前年度比88名減）</p>
町立体育館	<p>町民のスポーツ・レク活動の拠点とし、施設の充実と利便性に努め健康増進とスポーツの普及に努めた。</p> <p>しかし、施設の老朽化が進んでおり、長期的な整備計画が必要な状況となっている。</p> <p>開館日数は308日、定期利用団体数は5団体となっている。</p> <p>団体利用人数 4,565名（前年度比 471名減）</p> <p>個人利用人数 1,957名（前年度比 764名減）</p> <p>合計利用人数 6,522名（前年度比1,235名減）</p>
屋内グラウンド	<p>定期利用団体数は6団体で、町民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として施設の有効利用に努めた。特に冬期間のスポーツ振興に大きな役割を担っている。開館日数302日。</p> <p>団体利用人数 8,987名（前年度比588名減）</p> <p>個人利用人数 1,216名（前年度比433名増）</p> <p>合計利用人数 10,203名（前年度比155名減）</p>
温水プール	<p>町民の健康維持と体力向上が図られる施設として管理運営に努めた。しかし、施設の老朽化は進んでいるため、平成30年度に外壁・鉄骨等の改修工事を計画している。</p> <p>開館期間5月2日～9月23日まで126日間開館</p> <p>団体利用人数 1,585名（前年度比206名減）</p> <p>個人利用人数 1,926名（前年度比541名減）</p> <p>合計利用人数 3,511名（前年度比747名減）</p>
学校体育館の開放	<p>増毛中学校体育館を10名以上の団体・グループに開放し、定期的な利用により、町民の健康と体力の向上並びにスポーツ人口に対する効果的な学校施設の利用促進に努めた。</p> <p>開放時間 週4回18時45分～20時45分まで</p> <p>利用団体 3団体（増毛バレーボール愛好会） （舎熊スポーツサークル） （増毛テーブルテニスクラブ）</p>

学識経験者意見

増毛小学校学校評議員 南山岩男

増毛町社会教育委員 武井光昭

【学校教育】

- 教育活動支援員、学習支援員、特別支援教育支援員の配置は、子供たちの健全な育成への細やかな教育体制が図られており引き続き配置されることを望む。
- 外国語指導助手を配置して小中学校、幼稚園、保育所等への巡回指導は、授業の充実が図られている。また、巡回指導以外での活動をとおして幅広い世代の町民が英会話に親しむことが出来たことは英語教育がますます重要視されていることから今後も継続されることが望ましい。
- 夏休み、冬休みの短期学習会を実施、基礎学力の向上をはかっていることは、教職員の教育に対する熱意を感じる。
- 子供の読書活動は大切であり楽しみながら読書に親しめる工夫や環境づくりに努めていただきたい。
- 小中学校ともに、校内無線LANが整備され、教育用タブレットを利用して授業の効果を上げている。また、先生方が自ら教材を作成して、子どもたちに、より理解しやすい授業の研究を行っている。増毛小中学校でのICT教育を大いに評価したい。
- 教材費の助成、児童生徒の傷害保険掛け金の全額負担、スキー授業への援助、中体連参加費の助成などの保護者負担の軽減が図られている点は大いに評価したい。
- 給食費の助成や小中学校へ入学する児童生徒への通学カバン等の寄贈を始め、通学児童生徒のスクールバスの運行、各種校外授業、行事や部活動のスクールバスの運行は、保護者負担の軽減を図ると共に登下校の安全を図る上からも必要であり、今後も継続されることを望む。
- 全体的に、点検及び評価報告書に記載のとおり地域社会の形成者としての子供たちの資質の向上に向けて、教育委員会、教職員相互が効果的な諸事業の実践に取り組まれている事を高く評価する。

【社会教育】

- 社会教育委員会議では、定期的に各種の社会教育事業施策の計画・実績の報告を受けて、改善点や要望を審議している。これからも多くの町民の声を聞き、今後の施策に反映してもらいたい。
- 毎月「社会教育便り」が発行され、町広報の折り込みに入れられているのは社会教育の1ヶ月の経過や翌月の予定などの動きが良く分かり大変良いことである。社会教育担当職員のご苦勞に感謝したい。増毛町の社会教育の活性化のためにも大変よいことなので今後も続けて発行して欲しい。
- 家庭教育の情報誌「親子の時間」は日常親子で語り合うヒントを与える情報源として家庭教育上重要なものとする。
- 暑寒大学は、65歳以上の方を対象に、学習会・講演会・施設見学など趣味・レクリエーション・健康等の学習会を開催し高齢者の生きがいを見いだすように努めていることは、大いに評価したい。2、3年前までは、男性が少なく、何となく活気が少なかった。しかし、最近では男性の加入者が増え、大学の雰囲気も一段と盛り上がり、活性化していることは大変喜ばしいことである。今後も男性の数が増え、暑寒大学のより一層の活性化を望むところである。
- 内容にもよるが、舞台芸術鑑賞事業を児童生徒のみで無く、町広報・新聞の折り込みや防災無線を通じて別枠で地域住民にも鑑賞できる手立てを講じて欲しい。(有料でも良い)
- 子どもたちには、自ら生活する郷土に誇りを持たせる教育が必要である。郷土の豊かな自然や文化に親しむ教育活動を充実するため、地域に定着する事業の掘り起こしに取りくんで行く必要がある。(例として、雄冬の神楽など)最近、社会教育が中心となって、町内の名所旧跡に親しむ事業をくまれで実施している点では評価できる。
- 管内一の人工芝生のある屋内グラウンドの完成により、健康で安全な施設となったことは大変喜ばしいことである。利用している町民に対して大変評判が良い。これを機会に、さらなるスポーツの振興を図っている必要がある。
- 町民一人一人が生涯にわたり生きがいとゆとりを求め、自らの資質向上や学習活動が展開できるように各種情報を提供し、団体・個人のサークル活動等の支援に努めていくことが望まれる。(学習内容の指導志や助成も含めて)